

# かかりつけ医の経営戦略～成功の秘訣を紐解く～

## まつい整形外科 桜坂スポーツ関節クリニック(福岡県福岡市)

第1回 #働きたい医療機関に

## スポーツ医学とMRI検査を特色とする “とがった整形外科クリニック”として 医療提供していきたい



2023年6月、福岡市中心部に開院した

まつい整形外科桜坂スポーツ関節クリニックは、その名が示すとおり、スポーツ医学に関する高い専門性を特色の一つに打ち出しています。

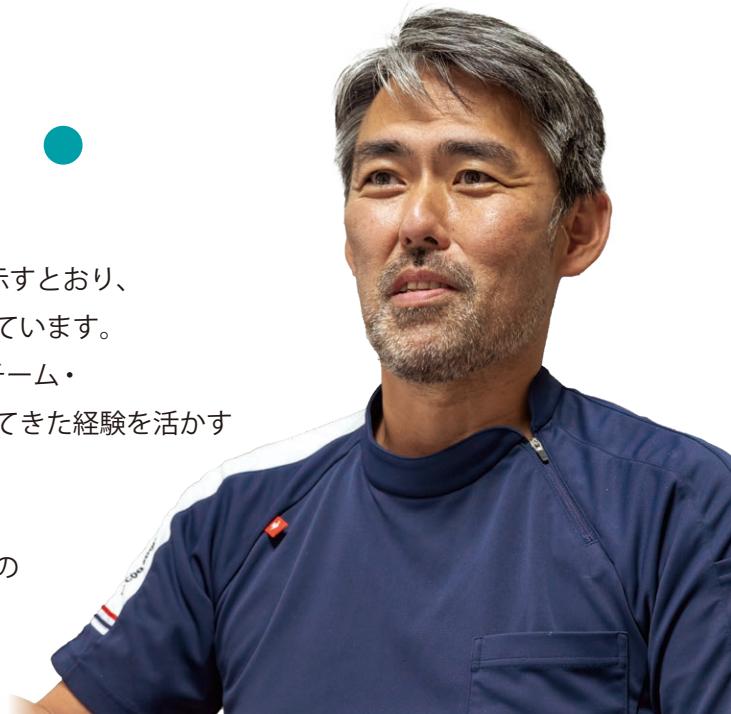
院長の松井元先生は、2015年から地元の実業団ラグビーチーム・

九州電力キューデンウォルテクスのチームドクターを務めてきた経験を活かすとともに、診断から治療までクリニックで完結できる

整形外科診療を実践することを強く意識し、開業しました。

目指す医療を実現するために取り組んできた診療体制整備の実際について、松井先生に伺いました。

松井 元 先生



## 迅速な診断による治療方針決定・予後予測まで 確実に対応できるクリニックを目指しMRIを導入

私が開業のイメージを描くきっかけとなったのは、病院勤務医当時、クリニックでも非常勤医師として診療する経験をしたことでした。多くの地元クリニックにて勤務しましたが、どのクリニックにも画像検査機器がX線装置しかなかったために、患者さんの訴える症状に対して正確な診断を付けることに限界があり、他院に紹介する例が多かったのです。その中で、クリニックであっても、幅広い症例に対

して可能な限り迅速・正確に診断し、診断に基づいた治療方針の決定や予後予測まで一貫して行う整形外科診療を提供できる施設を開業したい、と思うようになりました。そのための設備として必須と考えたのが、MRI装置でした。加えて、MR画像による確定診断と予後予測に基づき、リハビリテーション治療によって症状改善や機能回復をしっかりとサポートできる環境も整えたいと考えました。そこで、リ



クリニック外観。ゴリラのキャラクター「チェリゴリ君」が出迎えてくれる

ハビリ室の設備やリハビリスタッフの人員体制を充実させることにも注力しながら、開業準備を進めました。

2023年6月の開院から、患者数は順調に増加し、現在は1日平均120人程度にまで達しています。当院の患者層について特徴的なのは、一般的な整形外科クリニックと比べ、高齢者の割合が少なく、若年者が多いことです。病院勤務医当時から携わっていたスポーツ医学を診療の特

色の一つとして打ち出すことで、若年者のスポーツ障害・外傷による受診が多くなっています。

なお、手術治療が必要になるケースでは、基本的に連携する病院に紹介していますが、私が専門としてきた半月板損傷や靭帯損傷に対する膝関節鏡手術については、連携する病院の手術室に出向いて、私自身が執刀することも多くあります。

## プロアスリートの競技人生を 長期的視野でサポートする診療体制を整備

当院では、プロアスリートをスポーツ医学に基づいてサポートする診療提供を行っており、現在、ラグビー、自転車競技、女子サッカーのプロチームをサポートしています。院内で診察やリハビリ治療を行うだけでなく、私がチームの練習拠点に出向いて診察したり、理学療法士が試合に帯同し、コンディショニングを行ったり、さまざまな取り組みを行っています。試合への帯同では、選手に対して特定の理学療法士が専従でサポートすることもあり、個々の選手の状態を詳細に把握しているからこそ可能な、きめ細かいサポートができると感じています。また、プロチームをサポートするため

の専用の電子カルテシステムを導入しました。クリニックのカルテからは完全に隔離されたシステムを構築し、当院で撮像した検査画像に、トレーナーなどのチームスタッフが院外からもアクセスして迅速に閲覧できるようにしています。

こうしたサポート体制やシステムの導入は、チーム側と垣根なく連携し、スポーツ医学の側面からアスリートの競技生活の継続をサポートするために重要だと考えています。例えば、けがをしたアスリートに対し、医療側がその専門的見地のみから競技の継続を止めることが必ずしも正しいわけではないと思うのです。本人の価値観やチーム

側の視点を十分に理解したうえで、医療側の視点からの確に診断し、競技を安全に継続する方法をともに考えることが重要であり、そこには「充実した競技人生を長く送れるように」という視点も不可欠であると考えています。

このようなアスリートへのサポートは、一般の患者さんのリハビリ治療に活かせる面もあると考えており、当院で働く理学療法士には、そこにやりがいを感じて取り組ん

でほしいと願っています。そのため採用にあたっては、スポーツへの興味、あるいはスポーツ障害・外傷で苦労した経験を持っていることに加え、理学療法士としての専門性を高めていきたいという志向があることを重視しています。アスリートに対するより良い医療サポートの形について、私自身が興味を持って取り組んでおり、ともに追求してくれるスタッフと協働していきたいという思いがあります。

## リハビリテーションの定量的評価ができる機器を活用し 患者さんに納得感ある治療を提供

開業時からこだわった、充実したリハビリ環境を提供するため、100m<sup>2</sup>を超えるリハビリ室を設け、リハビリスタッフとして常勤5人、非常勤4人の理学療法士に加え、リハビリ助手1人を配置しています。さらに、3人いる看護師がリハビリ助手を務めることもあります。看護師には採用の際、当院の方針として担当業務は看護師の本来業務以外に、リハビリ助手、画像検査の補助、受付業務など多岐にわたることをあらかじめ説明しています。

そして、当院のリハビリ治療の特色として、患者さんの改善についての定量評価を積極的に行っていることが挙げられます。筋電図やモーションキャプチャーを導入し、それら

による測定・解析結果を治療方針の作成や患者さんへの指導に活かしているのです。例えば、一般の患者さんであれば「日常生活を支障なく送れる」、アスリートであれば「競技に復帰する」などの治療目標を設定することになりますが、効果的なリハビリ治療を継続するには、段階的な改善の実感や治療への納得感を持ってもらうことが必須と言えます。そのために機器による定量評価を繰り返し行い、リハビリ治療のなかで現時点ではどこまで改善しているのかを数値や画像で患者さんに示すことが有用だと考えています。

(2025年1月28日取材)



高級スポーツジムのような雰囲気のリハビリ室

超電導磁石式全身用MR装置

販売名: MAGNETOM フリー マックス/フリー スター

医療機器認証番号: 303AABZX00069000